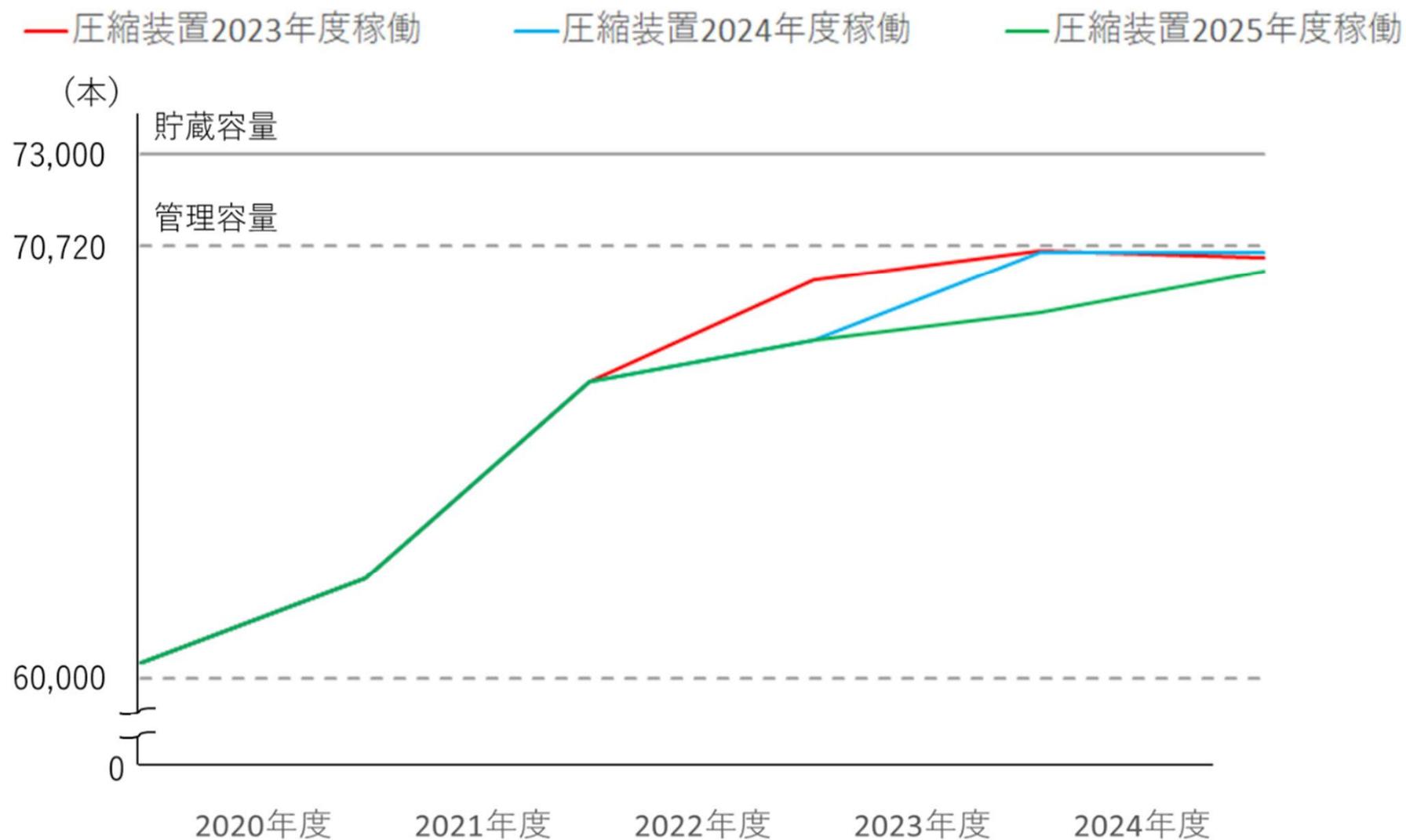


# 東海第二発電所 圧縮減容装置の導入に係る 固体廃棄物貯蔵庫の運用管理について

2021年8月18日  
日本原子力発電株式会社

- 東海第二発電所における**放射性固体廃棄物の発生・減少の要因と状況**は下表の通り。また、今後の**東海第二発電所の固体廃棄物貯蔵庫の保管量推移予測**は次頁の通り。
- 発生要因①～③により、**今後は固体廃棄物貯蔵庫の保管量が管理容量に漸近する見通し**であるが、例えば**定検工事内容を安全性に影響を与えない範囲で実施時期を見直す等**により、圧縮減容装置の運用開始時期が遅延した場合でも、**管理容量以下で運用することは可能**である。

	要因	要因の内容	発生・減少の状況
発生	①安全対策工事	防潮堤等の設置工事に伴い発生	プラントの安全性を高めるためのこれらの工事は、最優先で計画通り実施するため、廃棄物の発生時期・発生量は原則変更がない。
	②特重設置・改造工事	特重施設の設置や既設設備改造の工事に伴い発生	
	③再稼働準備工事	プラント再稼働にあたり行う設備の準備・点検に伴い発生	プラント再稼働時期により工事実施時期が変更となるが、廃棄物の発生量は変動しない。
	④維持管理作業	プラントの維持管理に伴い実施する定期的な点検等により発生	プラントの運転・停止によらず定常的に廃棄物が発生する。その物量はプラント運転中の方が多くなる。
	⑤定検工事	原子炉定検において実施する点検・設備更新等により発生	プラント再稼働時期によらず定検計画に基づく工事内容により発生時期・物量が変動する。
減少	①可燃物の焼却	発電所内の雑固体焼却設備で焼却	廃棄物処理処分計画に基づき計画的に実施。
	②溶融処理	発電所内の雑固体減容処理設備(高周波溶融炉)で減容	
	③埋設施設への搬出	六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターへ搬出	
	④圧縮処理【本申請】	発電所内の圧縮減容装置で減容	廃棄物処理処分計画に基づき計画的に実施。(既許可設備の使用開始後)
	⑤L3埋設施設への処分等【今後計画】	現在審査中のL3埋設施設に埋設処分等を実施	今後L3埋設施設の事業許可取得後等に計画的に実施。



注)2020年度末までは実績値, 2021年度以降は予測値